

令和4年度保幼小合同研修会

保幼小の円滑な接続に ついて

小郡市教育委員会

本日の流れ

- 1 幼児教育と小学校教育のギャップ
- 2 接続期(架け橋期)に大切にしたいこと
- 3 全ての子どもたちの力を引き出す多様な学びの場

よく耳にする「小1プロブレム」とは

- 集団行動がとれない
- 授業中に座ってられない
- 先生の話が聞けない
- 学校の生活リズムに慣れない



など、小学校に入学した1年生が学校生活になじめない状態

〈小1プロブレムの要因〉

幼児教育と小学校教育のギャップとの関連指摘

「小1プロブレム」の要因

幼児教育

遊びや体験を通じた教育

帯で設定された時間

共有の机、椅子

保護者との登降園

弁当(給食)／お茶

小学校教育

教科を中心とした教育

45分で区切られた時間

自分個人の机、椅子

自分で(友達と)登下校

給食／牛乳

文部科学省作成「幼保小の架け橋プログラム」

架け橋期：生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期

3歳

5歳

小1

小2



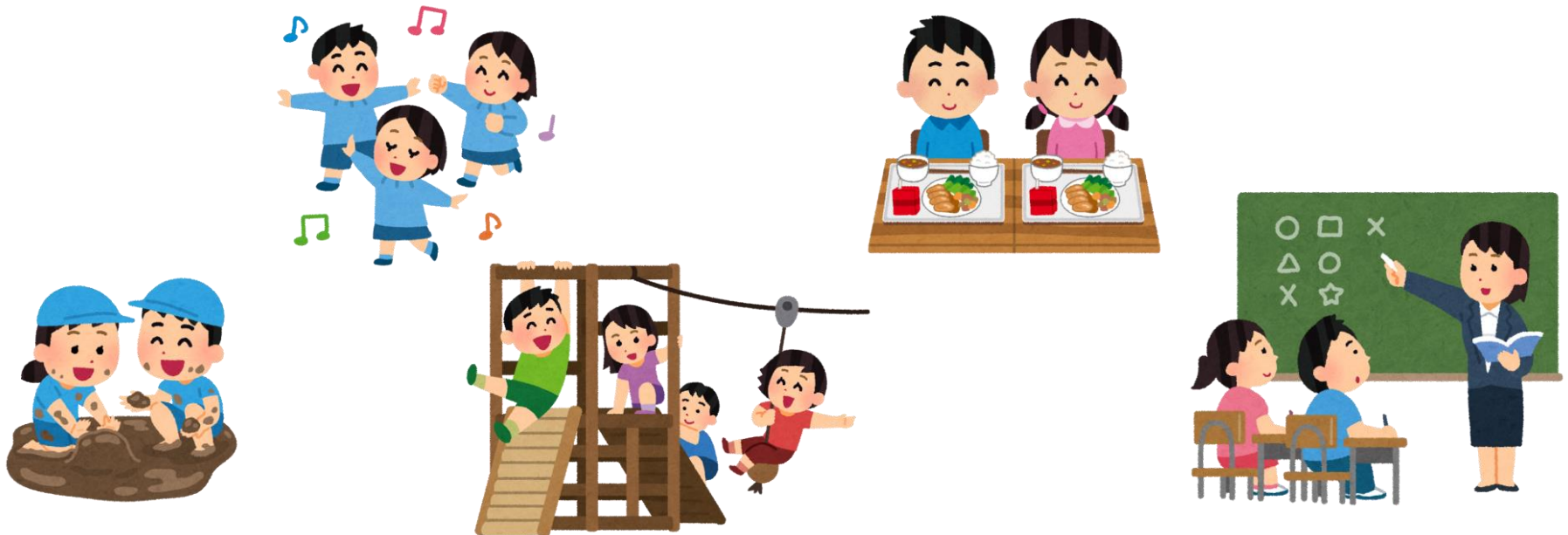
架け橋期

〈架け橋プログラムのねらい〉

幼児教育と小学校教育の関係者が連携した
カリキュラム・教育方法の充実・改善

本研修会のゴール

- 幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために、「架け橋期に大切にしたいこと」の共有
- 架け橋期のカリキュラム・教育方法の充実・改善



本日の流れ

- 1 幼児教育と小学校教育のギャップ
- 2 接続期(架け橋期)に大切にしたいこと
- 3 全ての子どもたちの力を引き出す多様な学びの場

幼稚園教育要領等の内容について

幼稚園

幼稚園教育要領

保育所

保育所保育指針

認定
こども園

幼保連携型
認定こども園
教育・保育要領

ねらい及び内容が
共通化

小学校学習要領の内容について

未来社会を切り拓くための資質・能力

社会に開かれた教育課程

主体的・対話的で深い学び

カリキュラム・マネジメント

外国語活動、外国語科

特別の教科 道徳

プログラミング教育、主権者教育、消費者教育 等

幼児教育と小学校教育の「円滑な接続」とは？



一緒に交流すること？

申し送りをすること？



5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

- (1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し・・・
- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、
小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図る
よう努めるものとする。

4 学校段階等間の接続

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、…(略)

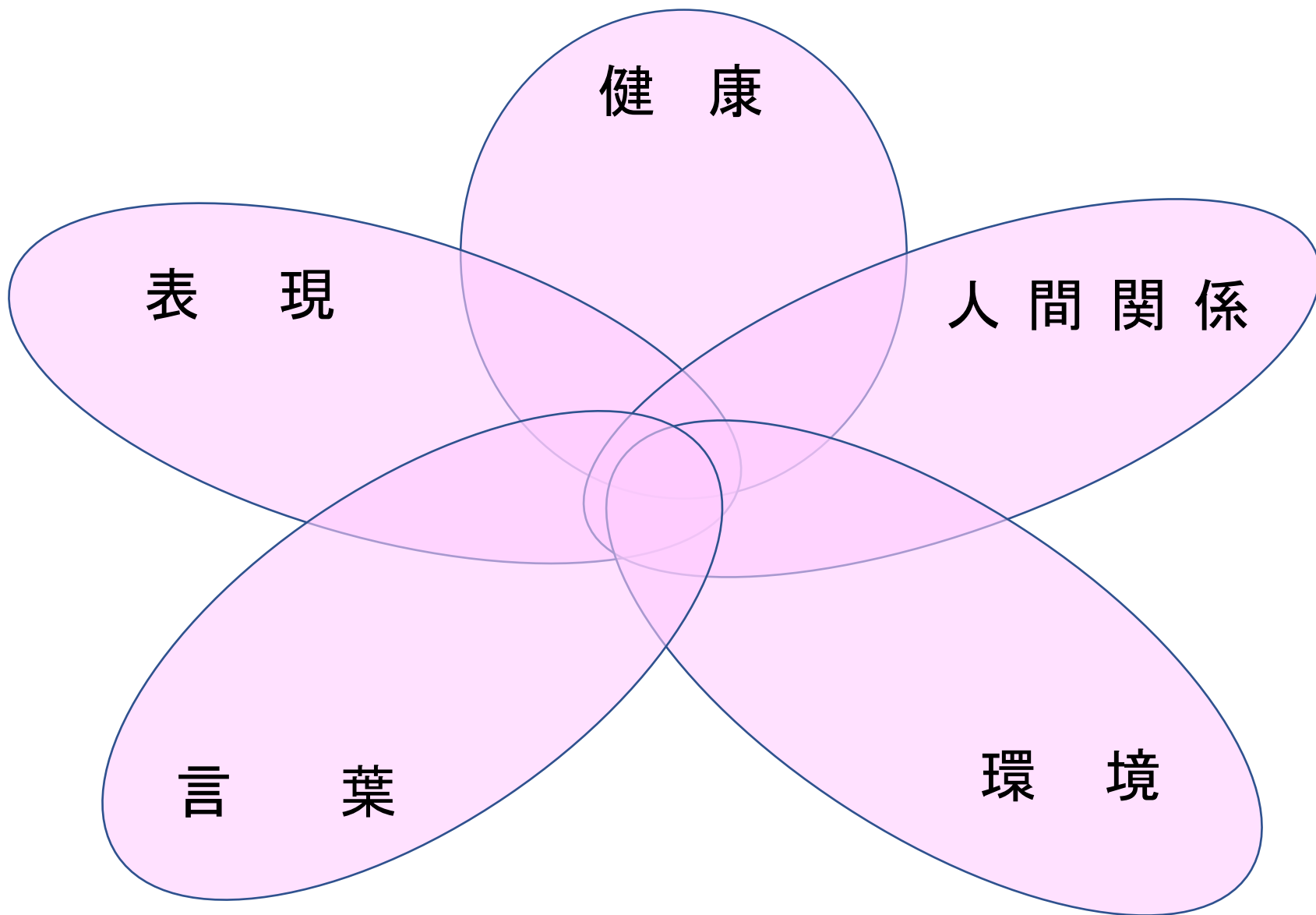
特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

- 小学校の教師との意見交換、合同の研究
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を
共有

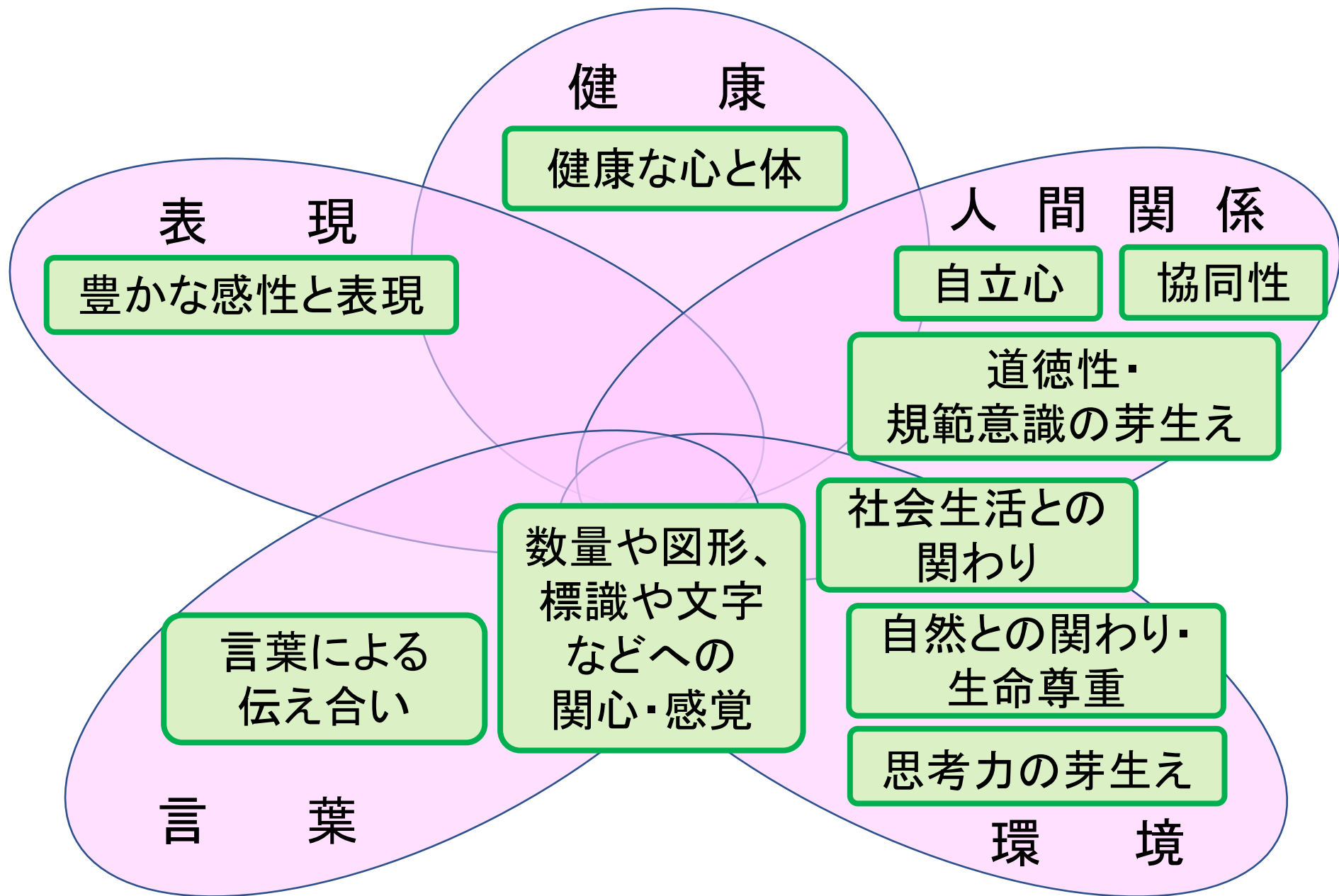
小学校学習指導要領 総則

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を
踏まえた指導の工夫
- スタートカリキュラムの作成

幼児教育における資質・能力を育む5領域

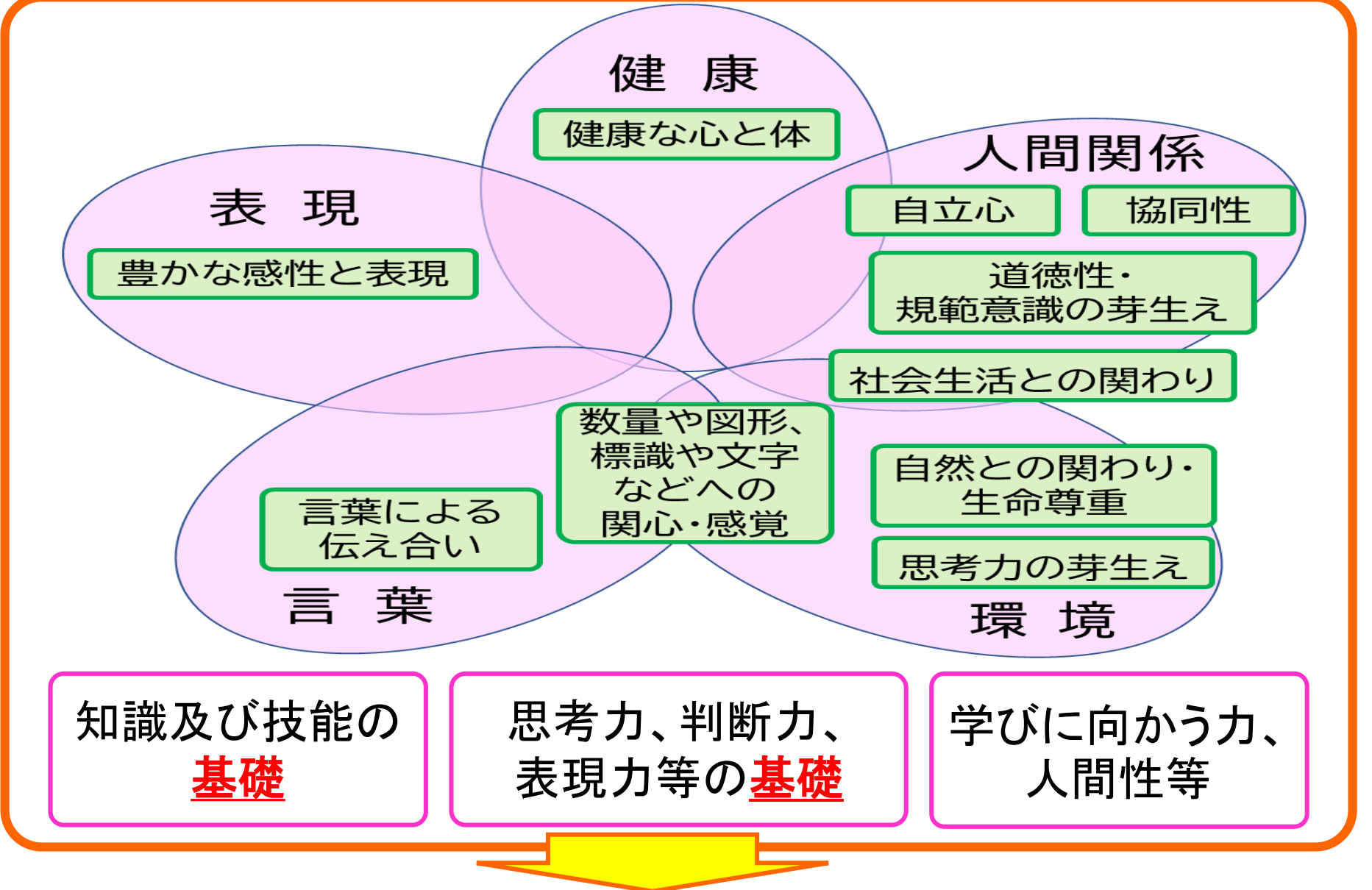


幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより育みたい幼児の具体的な姿
- これらの姿は指導の方向を示すものであり、到達すべき目標や、個別に取り出して指導すべき内容でないことに十分留意
- 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るために小学校と連携



知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

よりよく生きていくための「非認知能力」

学びに向かう力、人間性等

認知能力

学力として図れる知的な能力

非認知能力

学力で測れない個人の特長

幼児教育

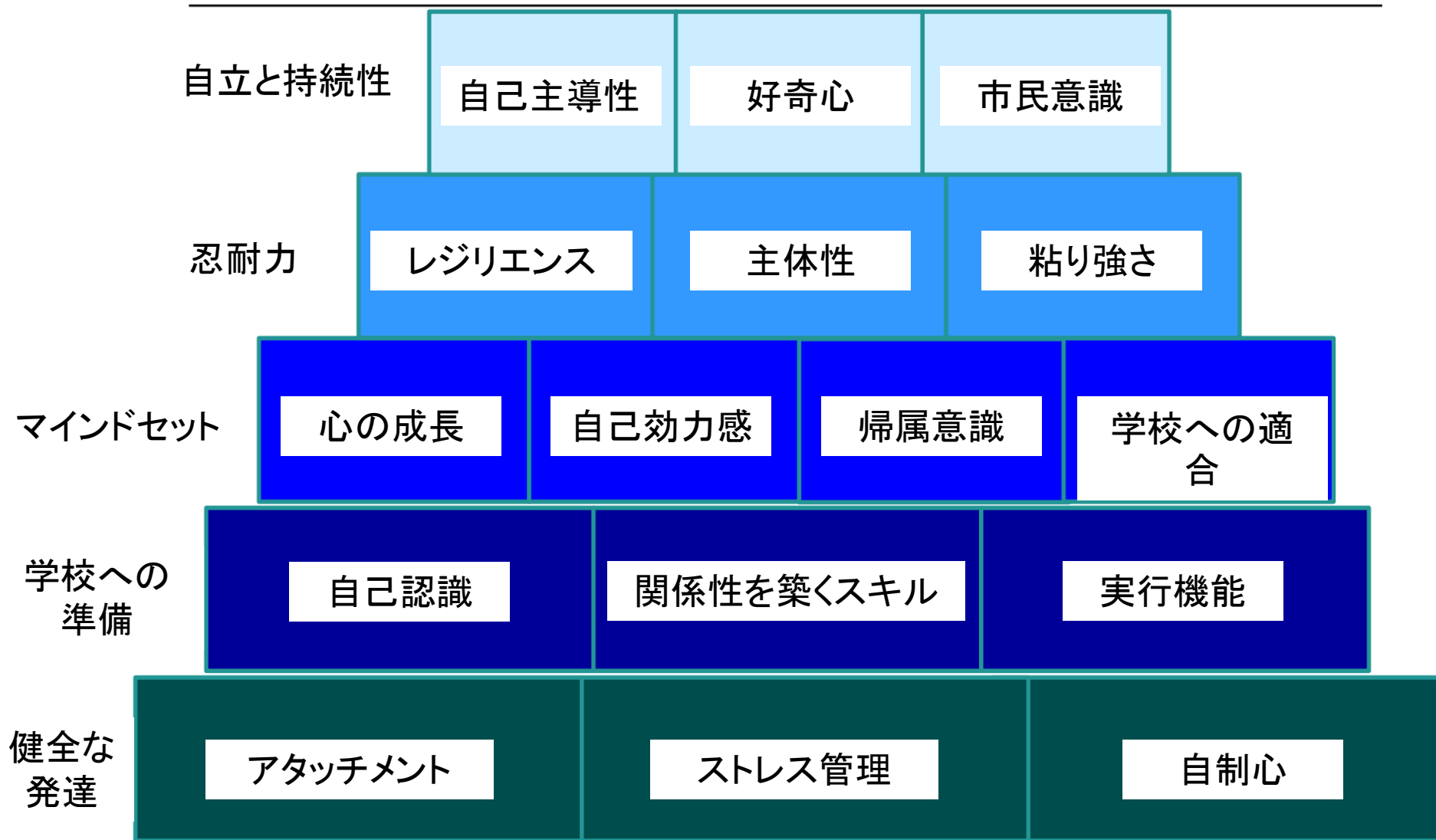


小学校教育



中学校教育

学習のための積み木



(ターンアラウンド・フォー・チルドレンの研究ペーパー) 2

4 学校段階等間の接続

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、…(略)

特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

円滑な接続のために

「幼児期の終わりまでに
育てほしい姿」を共有

幼稚園

保育所

認定こども園

幼児期の
終わりまで
に育て
ほしい姿

小学校の教師との
意見交換、合同の研究

「幼児期の終わりまで
に育てほしい姿」を
踏まえた指導の工夫

小学校

スタート
カリキュラム
の作成

生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫

【国語科】

- ・挨拶の言葉を考えてはっきり話す。
- ・場面に応じて、声の大きさを考えて声に出す。

【音楽科】

- ・園で親しんだ歌や手遊び歌を歌う。

【算数科】

- ・身の回りのものの数を調べる。

【生活科】

学校の施設の様子や先生、友だちのことが分かる。

【図画工作科】

- ・表現したいものを描いたり、作ったりする。

【道徳科】

- ・気持ちのよい挨拶の大切さ気付く。

【特別活動】

- ・教室や施設の場所や使い方を知る。

【体育科】

- ・遊具の使い方や並び方を知る。

主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用

これまでの
教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの
授業改善

「1人1台端末」ではない環境

一斉学習

- ・ 教師が大型提示装置等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる

学びの
深化

個別学習

- ・ 全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難）

学びの
転換

協働学習

- ・ 意見を発表する子供に限られる

「1人1台端末」の環境

- ・ 教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる
- 子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に



- ・ 各人が同時に別々の内容を学習
- ・ 個々人の学習履歴を記録
- 一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能



- ・ 一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有
- ・ 子供同士で双方向の意見交換が可能に
- 各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる



各教科等における1人1台端末の活用例

音楽、図画工作、美術、工芸、書道

表現の可能性を広げたり、鑑賞を深めたりする

- ・タブレットPCやソフトウェアを活用した、リズムづくりや動く工作、アニメーションの制作など、表現の可能性を一層広げる
- ・各自が曲の興味のあるところを繰り返し聴くなどして、よさや美しさを味わうことや、ネットワークなどを活用して作品などについて感じたことや考えたことなどを共有する



家庭、技術・家庭

アイデアを可視化したり、実習等を振り返ったりすることで、問題解決を充実する

- ・動画等で実習・調査等を振り返り、評価・改善する
- ・3D CADを活用して設計を最適化する



情報

実習で、コンピュータや情報通信ネットワークなどのICTを積極的に活用し、アウトプットの質と量を高める

- ・情報を統計的に処理して判断する
- ・活動や情報技術を活用して問題解決をする

生活科、総合的な学習（探究）の時間

振り返りや表現に活用し、活動への意欲を高める(生活科)

- ・対象の拡大提示や記録した情報の伝え合いから興味関心や意欲を高める
- ・取組を映像で客観的に振り返り、自ら実感しにくい活動のよさに気付く

情報の収集・整理・発信による探究の質的向上を図る(総合)

- ・実社会から多様な方法で集め、蓄えた情報から課題を設定する
- ・インターネット、電子メール、WEB通信アプリ等を活用した取材
- ・蓄積したデータから必要な情報を取捨選択し、ソフト等を用いて分析
- ・プレゼンテーション、サイトによる発信など、再構成した情報を幅広く伝える

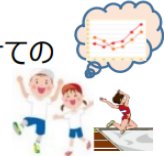
特別支援

教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするためにICTを活用
障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するためにICTを活用

体育、保健体育

記録をデータ管理し、運動への意欲をもち、新たな課題設定に役立てる

- ・データ管理したこれまでの自己の記録を比較することで、伸びを実感したり新たな課題を設定したりする
- ・ゲームの様子を撮影した動画を見返し、次のゲームに向けての作戦を考える



外国語

海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、発信力を高める

- ・一人一人が海外の子供とつながり、英語で交流・議論を行う
- ・ライティングの自動添削機能やスピーキングの音声認識機能を使い、アウトプットの質と量を大幅に高める



特別の教科 道徳

道徳性を養うための学習活動における効果的な活用

- ・子供が自分の考えを端末に入力し、共有して他者の考えを知りながら、それぞれの考えの根拠に基づき議論することで、多面的・多角的に考える
- ・子供が議論を通して道徳的価値の理解を深めた後、自己を見つめて考えを端末に入力し、教師がそれを把握、整理して、全体に共有する

特別活動

集団や自己の生活上の課題を解決する（学級活動・ホームルーム活動）

- ・生活場面を撮影するなど、必要な情報を収集し、学校生活や社会の問題を見いだす
- ・個人の意見を表明し意見を分類・整理する
- ・解決方法を集団として合意形成、個人として意思決定する
- ・実践を撮影して共有し、振り返りを次の課題解決につなぐ

本日の流れ

- 1 幼児教育と小学校教育のギャップ
- 2 接続期(架け橋期)に大切にしたいこと
- 3 **全ての子どもたちの力を引き出す多様な学びの場**

多様な学びの場とは？



どのような学びの場があるの？

通常の学級とどのように違うの？



連続性のある多様な学びの場

特別支援
学校

特別支援
学級

通級指導
教室

通常の
学級

- 障がいのある子どもたちの教育的ニーズに応じる指導を提供できる多様で柔軟な仕組み
- 多様な学びの場の対象となる障がいと程度は法令等で規定

対象となる障がいの種類

特別支援学校

視覚障がい
聴覚障がい
肢体不自由
病弱
知的障がい

特別支援学級

視覚障がい
聴覚障がい
肢体不自由
病弱
知的障がい
自閉症・情緒障がい

通級指導教室

視覚障がい
聴覚障がい
肢体不自由
病弱
自閉症・情緒障がい
L D
ADHD

特別支援学級の教育課程

特別支援学級は、「特に必要がある場合は(略)特別の教育課程によることができる」と法令で規定されています。しかし、「特別ならば何をしてもいい」ではありません。実態に応じて編成します。

ステップ1：知的障がいの有無をチェックし、主となる学習内容を決定

知的障がいがない場合

①当該学年の各教科等

+ 自立活動

※「準ずる教育課程」(原則として同一)のため、中学校の各教科は免許状を有する教科担当が指導

ステップ2：知的障がいがある場合、障がいの程度によって主となる学習内容を決定

知的障がいがあり、
①が困難な場合

②下学年の各教科等

+ 自立活動

知的障がいがあり、
②が困難な場合

③知的障がい特別支援学校の各教科等
+ (各教科等を合わせた指導)

+ 自立活動


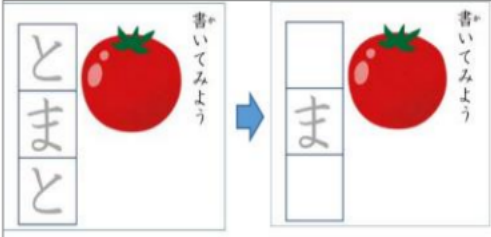
障がいの特性に応じた配慮

知的障がい

○学習によって得た知識や技能が断片的になりやすい

⇒スモールステップで繰り返し指導

⇒ **ICT** 抽象的な事柄を具体的に提示

給食エプロンのたたみ方 	① 机に広げる	
	② 右のそでを折る	
	③ 左のそでを折る	
	④ 半分に折る	
	⑤ もう一度折る	
	⑥ 袋に入れる	

○知識や技能が実際の生活で応用されにくい
⇒生活単元学習や作業学習等で、
実際的な場面と結び付け



○成功体験が少ない

⇒興味・関心を喚起する題材で意欲付け

⇒小さな成功体験を積む目標設定










自閉症

○初めて経験することに不安

⇒見通し(ゴールと手順)を視覚化

⇒学習方法をパターン化

⇒ **ICT** 事前に内容を説明

そつぎょうしきの ながれ	
☆いちどう れい	
①かいしきの ことば	
②こっか せいしょう	
③がくじ ほうこく	
④そつぎょうしょうしょ ならびに きねんひんじゆよ	
⑤がっこうちょう しきじ	

○相手の心情や状況の想像が苦手

⇒抽象的な内容や暗黙の了解を視覚化

⇒表情図, ロールプレイ

※表情図は「ドロップス」HPより引用



よくある質問

Q 特別支援学級は個別指導の場ですか。

A 個別指導の場ではなく、**個別の目標**に向かって学習する場です（個別学習、グループ学習など）



Q 担任の先生の外に、支援をする人はいますか。

A 特別支援教育支援員が全ての学校に配置されており、生活面や学習面等の**支援が必要な場面**で支援をします。
※一日を通して個別に支援をするわけではありません。

令和4年度保幼小合同研修会

保幼小の円滑な接続に ついて

小郡市教育委員会